



芸能性の高い荒神神楽

備中神楽



指定区分	国指定重要無形民俗文化財
読みかた	びっちゅうかぐら
所在地	その他(備中地方)
指定年月日	昭和54年2月3日
解説	備中地方(岡山県西部)一帯に伝承されている神楽。元来は荒神に奉納する神楽として神事中心の「荒神神楽」が行われ、神職のみが行っていた。江戸時代後期の神宮で国学者の西林国橋(こっきょう)が、記紀の神話をもとに、「天の岩戸開き」「国譲り」「大蛇退治」を加え、芸能的要素の強い「神代神楽(じんだいかぐら)」を創造し、人気を得て広く伝承されることとなった。
アクセス方法	JR高梁駅より車で10分
公開状況	【日名交流館かぐら】「国橋祭り大神楽大会」を毎年4月の最終日曜日に実施 / 【成羽文化センターかぐら館】「子供神楽発表会」を年2回(冬・夏)実施
設備	トイレ  駐車場 
備考	【問い合わせ先】高梁市教育委員会 0866-42-9083

きつずページ



していくぶん (指定区分)	国指定重要無形民俗文化財
ぶんかざいめい (文化財名)	備中神楽
よみかた	びっちゅうかぐら
しょざいち (所在地)	その他(備中地方)
していつひ (指定した日)	昭和54年2月3日
せつめい	もともと神(かみ)さまに奉納(ほうのう)するための「荒神神楽」(こうじんかぐら)といわれる神楽でした。江戸時代(えどじだい)のおわりごろ、西林国喬(にしばやしこっきょう)という学者(がくしゃ)が「大蛇退治(おろちたいじ)」などの話を(はなし)をつけたして、芸能性(げいのうせい)の高い神楽となって、とても人気(にんき)が出ました。